

「赤れんが番外編・・・HPバージョン」

文化部の「大人の遠足～鎌倉散策～」に参加できなかった方々には、こちらのアジサイはいかがでしょうか？

ブラウンの紫陽花、七変化



真夏の日差しがまぶしい季節となり、アジサイの話題は時季外れではありますが、今年もブラウンのアジサイがきれいだったので、ここでご紹介します。

同時に、身近なアジサイについて、改めてネットで調べてみました。すでにご存じのこととは思いますが、写真と一緒に「アジサイ豆知識」として、ご紹介します。

日本の梅雨を彩るきれいなアジサイ。その原産地は日本。自生の「ガクアジサイ」から「ホンアジサイ」が、それが、ヨーロッパに伝わって品種改良が進み、逆輸入されたものが「セイヨウアジサイ」。

まずは、名前の由来など

学名の頭に「Hydrangea（ハイドランジア）」とあるのは、ギリシャ語の「hydro（水）+ angeion（容器）」が語源。大量の水を吸収し、蒸発させる性質からとか。

日本での名の由来は諸説あり、もっとも有力とされているのは「あづさい（集真藍）」がなまったとする説。「あづ」は「あつ（集）」。「さい」は「さあい（真藍）」。

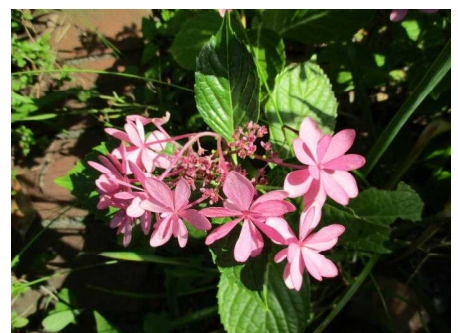
つまり、「青い（藍色）花が集まったもの」を意味する「あづさい」から来ているそうです。



「紫陽花」という漢字表記は、唐の詩人、白居易が別の花に付けた名。はつきよ

平安時代の学者、源順（みなものしたごう）が、アジサイにこの漢字を当てたことが誤って広まったと言われているそうです。

そういう学者さんがいたことなんて、今回初めて知りました。



アジサイの花色はどこから？

アジサイと言えば、何と言っても変化していく花の色の美しさ。



「土が酸性ならば青、アルカリ性なら赤」。よく知られていることですが、リトマス試験紙と反対なので、いつも混乱します、

ややこしい話ですが面白いと思った内容なので、花の色と土壌のPH（パーハー＝酸性度）との関係について、「おさらい」を。

花の色は、アントシアニンという色素によるもの。アジサイにはその一種のデルフィニジンが含まれていて、補助色素とアルミニウムのイオンが加わると、青色の花になるのだとか。

アルミニウムが根から吸収されやすいイオンの形になるかどうかは、土壌のPHが影響するためなんだそうです。

土壌が酸性だとアルミニウムがイオンとなって土中に溶け出し、アジサイに吸収されて花のアントシアニンと結合して青色の花に。

土壌が中性やアルカリ性だと、アルミニウムは溶け出さず、アジサイに吸収されないため、花色は赤に。

ですから、花を青色にしたい場合は、酸性の肥料やアルミニウムを含むミョウバンを使うといいらしいです。（そうなんですか？）

同じ株でも部分的に花の色が違うのは、根から送られてくるアルミニウムの量に差があるため。また、遺伝的な要素でアルミニウムの吸収度に関係なく、花色が決まるものもあるそうです。



「オタクサ」って、、、

次は、有名な「シーボルトとお滝さん」のお話。アジサイを見ると、この話を連想します。



ドイツ人のシーボルトは、1823年27歳の時、出島のオランダ商館の医師として来日。そして、日本人女性のお滝さんと結婚。二人の間に女の子が生まれます。

その子がのちに、父親の弟子達に医学を学んで、日本初の女医さんとなる楠本イネ。あの「オランダおいね」です。

その「オランダおいね」が2歳の時、シーボルトが帰国にあたって準備した所持品の中に、国禁の日本地図があったことが発覚して、彼は国外追放処分に。これがシーボルト事件（1829年）。

博学者でもあったシーボルトは、実に様々な日本のものを持ち帰るのですが、その中には、アジサイも。

彼は、そのアジサイに「オタクサ」と名づけました。愛する妻の名前をつけたのです。

彼は、お滝さんのことをうまく発音できず、「おたくさ」と呼んでいたそうです。美しいアジサイの花を眺めては、日本に残してきた妻子のことを思い出していたのでしょう。



梅雨時の雨にうたれるアジサイ。引き離されたシーボルトを想うお滝さんの姿とも、重なります。

そうした背景もあってか、たくさんあるアジサイの花言葉の1つに、「辛抱強い愛情」というのがあります。心ひかれる話です。

もうひとつの「アジサイ」

最後に、ちょっと横道。

もうひとつのアジサイが咲いていたのは、シーサイド商店街の和菓子屋さんです。小さな生菓子、その繊細なデザインに感心しました。



他にも、露草や朝顔も咲いていました。まさに、「職人芸」ですね。

お花ではありませんが、梅雨空を飛ぶイワツバメ、その繊細な表現。川には、若鮎も泳いでいました。

季節感がステキな生菓子です。



露草



朝顔



イワツバメ



若鮎

×(しめ)に、この一句

紫陽花の 末一色と なりにけり
小林一茶

残暑お見舞い、申し上げます。

真夏日が続き、「猛暑」「酷暑」「熱暑」にうだる時期となりました。HPでほんの少しでも気分転換をしていただけたら、、、と、記事を書かせていただきました。

「もうひとつのアジサイ」。決して和菓子屋さんの「回し者」でもなく、「宣伝」でもありません。地元を「探検」するのが趣味という、ブラウン居住のBさん情報です。

文化部の鎌倉遠足のご報告は、「赤れんが秋号」をお待ちください。

暑さ厳しき折、皆様、くれぐれもお体ご自愛ください。

自治会広報部